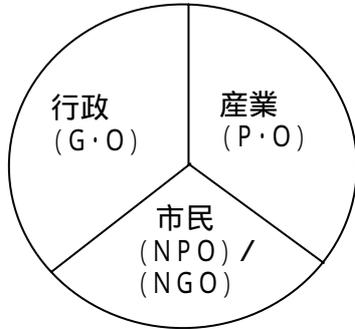


NPOの可能性とはどのようなものか

～政府 / 企業に頼らない生き方は可能か

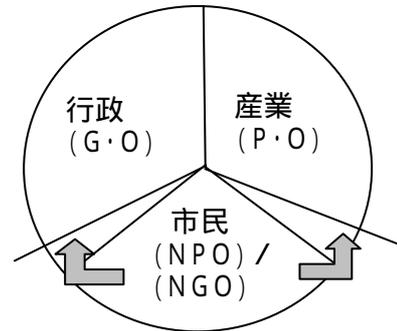
1. 三つの社会セクター

社会は三つのセクターに分けて考えることができる。
しかもその三つのセクターは、同一業種に同時に両立可能である。
そしてこれはボランティア(無償)ではない。労働の対価は公正な必要経費として当然受けることができる。



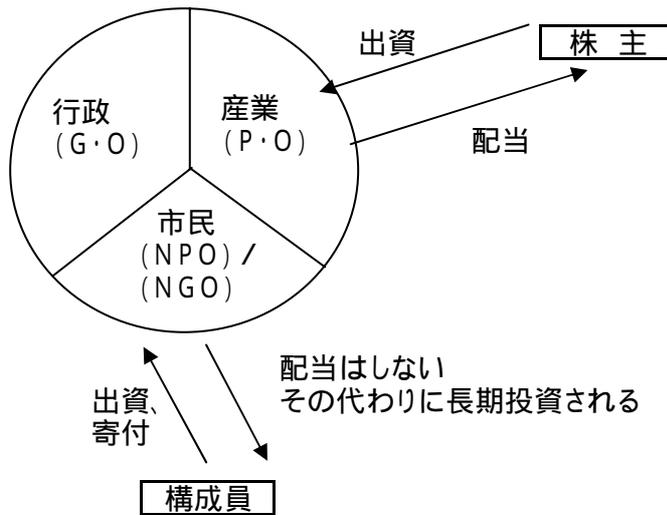
2. 相互のチェック&バランス

産業がもし暴利をむさぼるなら、市民セクターは代わりに事業を行えばよい。行政が不親切であったり、不効率であったりするなら、市民が行政に代わって事業を行えばよい。
しかし産業があることで社会が活性化するのだし、行政があることによって社会の不平等が是正される。従ってNPOだけが主流になるのではなく、互いに相互チェック、互いに切磋琢磨することが望ましい効果である。



3. 産業とNPOとの差は?

産業はオーナーである株主の出資によって成り立つ。
しかし産業は利益を得たとすると、株主に対して配当しなければならない。それに対してNPOは、配当することは許されず、構成員の意志に従って長期投資することができる。



4. 第二の行政と呼ばれる仕組み

行政には、豊かな者から徴税して貧しい者へ分配する、「所得の再分配」の機能がある。その機能を例外として、他の機能はNPOで代替することができる。

行政がNPOへの寄付に対して、税の所得控除を半額認めるならば、個人は税に100払うか、NPOに200払って100の税を支払ったものとみなされるか、選択できるようになる。

100円の納税

